

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE



vol. 41 2016年10月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nf-staff@netlive.ne.jp

<http://nofence.jp/>

INDEX

10.8 張真晟氏講演要旨（小川晴久） 2

管理所「16号」の由縁（宋允復） 4



10月8日 張真晟氏講演「北朝鮮の権力中枢で何が起きているか」

北朝鮮はごく少数の者が支配している その名は党組織指導部

——10.8 張真晟氏講演要旨——

代表 小川晴久

北朝鮮の統一戦線事業部で働き、1999年から金朝実録づくりが始まるやそれにも参加し、若いながら北朝鮮の支配のシステムを知った張真晟チャンジンソン氏が、今まで表面に出なかったすべてを牛耳る党組織指導部の形成過程の指導システムを、以下のよう
に明らかにした。詳しくは来月韓国で出版される氏の新著で明らかにされるが、10月8日に伺うことができたお話の要点だけを急ぎお知らせする次第である。

金正日は初めは少数派であった

金正日が1964年金日成総合大学を卒業した時、金日成の妻の金聖愛が大半のパルチザン派一世の支持を得ていて、金聖愛と金日成の子の金平一が後継者にふさわしいと見られていた。母の亡くなっていた金正日はきわめて不利な立場に置かれていて、彼が配属された文化芸術部は要職から遠い部署であった。

しかし金正日はこの部署をきわめて有効に活用し、利用していった。パルチザン参加者たちの回想記を専門作家たちから成る代筆作家集団たちによって多数出版し、演劇化し、歌や詩にもして、金日成偶像化とともにパルチザン参加者たちの偶像化、優遇策を開始し、彼らの歓心を集めていった。

党組織指導部の根は三大革命小組運動

1972年に思想革命・技術革命・文化革命の三大革命小組指導権限を金日成から託された金正日は、金日成総合大学の同窓生たちを三大革命小組（グループ）の要員に任命し、彼らを地方に派遣し、まず地方幹部の世代交代を進めた。地方幹部のやり方を保守主義、経験主義であると批判して、幹部の入れ替えをし、次第に中央にそれを進めた。

金日成が中国の文化大革命から靈感を受けたと張真晟氏は語られたが、金正日も同じであったと思う。こうして金聖愛と金平一を支持する勢力を一人ひとり排除して、後継者の地位を固めていったと張氏は語った。

党－行政システムを党－党システムに改編

1972年から始まった三大革命小組運動で党－行政システムは党－党システムに

改編されていった。党－党システムの後者の党が党組織指導部である。最初の党は党総秘書（金日成），後者の党は党組織指導部でその部長は金正日。党の実際の指導は党組織指導部がおこなうシステムが，党－党システムである。

党組織指導部は，張真晟氏もまだ全貌がつかめていないほど，たくさんの課からなる膨大な組織であるという。この党組織指導部の重要幹部として張真晟氏は5人の名を指摘した。呉克烈，金慶玉，趙延俊，黄炳瑞，金元弘。このうちの呉克烈を除く4人は党組織指導部の副部長であったが，公職にはつかない影の幹部である（金元弘を除く4人はアメリカ政府の制裁対象。NO FENCE 会報 40 号 7 ページ参照）。

張氏は秘密集団指導体制構成員として彼らを紹介したが，三代目の金正恩になって彼らが表面に露出する変化が起きているという。本来隠れていなければならない党組織指導部が露出しはじめているのが，三代目になってからの新しい変化であると張氏は指摘された。彼らはみな高齢であるので，彼らがいずれ入れ替わる時に変化が起きるだろうという。

党組織指導部が持っている最大の力が人事権であるという。金正日は部長としてそれを最大限に発揮してきた。彼を支えた組織指導部幹部たちは，唯一思想大系＝首領主義を維持するために，それを危うくする人士はみな粛清するのに貢献した。

金正日の十字形統治技術

三代世襲を実現してきた金正日の統治技術，またの名は党組織指導部による統治技術は，十字形統治技術であると張氏は図式化した。縦の体系は名誉職（実権はなし）。横の体系は実権職（公職から除外）。横の体系が膨大な党組織指導部になる。張氏はこの十字形を分権システムと名づけ，これが唯一指導体制の完成されたものと説明された。

1980 年第 6 回朝鮮労働党大会で金正日が後継者に指名された後，「党中央」という呼称が使われたが，西側社会では党中央とは金正日を指すと解していた。しかし党中央とは党組織指導部のことであったと張氏は強調された。

首領主義と党組織生活

金正日が後継者としては不利な状況から出発して金聖愛・金平一派を追い落とし，自らを後継者につくりあげてきた方法は，金日成の神格化であり，その反対者たちを粛清した手段は三大革命小組運動であったが，それによってつくられられた全体主義国家は，首領主義と党組織生活という2つの手段に集約されていることを強調された。

時間の関係からこの2つについて詳しい説明はなかったが，首領主義とは金日

成以外に絶対者はいないという教えであり、その意味では縦の体系に位置づけられた名誉職のどんな人物も、みな一党員であり、その自覚が党組織生活というものであるという形で、両者は1つのものであることがわかった。

北朝鮮の人々はこの2つの言葉を叩き込まれているという。金正恩が支配者としての首領になるためには、党組織指導部を指導する必要がある。父金正日がそれを長い時間をかけておこなってきた過程を知る時、金正恩はあまりにも幼い。演劇国家における首領演技者でしかない。

管理所「16号」の由縁

副代表 宋允復

海岸警備総局 17 旅団に所属した軍人の話。

1990 年代初頭に江原道通川郡七宝里トンチョン チルボの海岸警備に配置された（咸鏡北道の七宝山とは別地域）。

ここの海辺に金日成、金正日の別荘があり、1990 年代初頭に別荘そのものは完成していたものの、周辺の秘密工事はまだやっていたという。

ある日の常報（任務分担指示）で中隊長から「管理所の反動たちが来るので厳戒せよ。逃亡者が出たらその場で射殺せよ」との指示があった。管理所の「収容生」たちを乗せた大型車両（外を見えないように遮閉されていた）が通過するのを海岸警備隊の検問所で見、その後彼らが働く様子を高所に設置された監視所からも見ていたという。彼らがどの収容所から来たのかは知らない。

中隊長以上の上官は、現場に派遣された保衛指導員接遇の際にいろいろと耳打ちされていたようだ。後日、工事を終えた後、「秘密保持のために彼らは殺した」と聞いたという。

この者は軍幹部の息子であり、家に集う軍関係者たちの話を折々耳にし、「収容所の政治犯たちを様々な秘密工事に動員する」ことは常識として育ったようだ。

ちなみに、金日成に反対した者たちを「9号反動」、金正日に反対した者たちを「7号反動」とそれぞれ称し、化城ファンソンにある16号管理所のナンバー「16」の由縁は「9+7」、体制にとって容認できない反動、宗派を放り込む終身管理所なのだという。